

当センター職員における流行性ウイルス疾患 (麻疹・風疹・水痘・ムンプス) 抗体価の現状と課題

佐々木恭兵[†] 内田 栄二¹⁾ 佐藤 佑佳²⁾ 竹光 正和³⁾第73回国立病院総合医学会
(2019年11月8日 於 名古屋)

IRYO Vol. 75 No. 5 (419-422) 2021

要旨

近年国内において麻疹や風疹が流行し、ワクチン接種空白期間や先天性風疹症候群の問題からウイルス抗体価検査やワクチン接種の機運が高まっている。曝露リスクの高い医療従事者にとって、各ウイルスに対する抗体価を把握しておくことは、職業感染防止の観点で重要である。そこで、国立病院機構村山医療センター（当センター）では、院内感染対策の一環として全職員に対して麻疹・風疹・水痘・ムンプスのウイルス抗体価検査を実施し、十分な抗体を有しない職員にはワクチン接種を推奨することとした。今回、当センター職員における上記の抗体検査結果を報告するとともに、院内のこれらのウイルス感染に関連した課題について検討することを目的とした。

対象は当センターの全職員（委託職員は希望者）とした。検査はすべてEnzyme Immunoassay (EIA) 法で実施し、結果の解釈は第2版医療関係者のためのワクチンガイドライン^{のつと}に則った。常勤職員は年度の定期健康診断の際に、新採用者や中途採用者は採用後初めての健康診断に合わせて検査を実施した。検査を行った延べ職員456名（うち委託職員10名）の検査結果を解析した。

各ウイルスの抗体保有率は、風疹76%、麻疹51%、水痘97%、ムンプス67%であった。全体を通して60歳代以上の抗体保有率は男女とも高かった。風疹の抗体保有率が低かったのは男女とも20歳代であった。207名が追加ワクチンの接種対象者と判断されたが、実施したのは54名のみであった。

ワクチン接種の政策的な背景より年代で抗体保有率に違いがあるとされている。しかし、必ずしも年代で判断するのではなく抗体価を把握した上での個別的な対応が求められる。麻疹・風疹・ムンプスに関しては積極的にワクチン接種を勧める必要があり、中でも先天性風疹症候群予防の観点から風疹ワクチン接種が最も重要であると考えられる。そのため、ワクチン接種の啓発および職場内の計画的なワクチンプログラムの構築について検討していく必要がある。

キーワード 流行性ウイルス疾患、ウイルス抗体価検査、ワクチン接種、職業感染防止、院内感染

国立病院機構村山医療センター 看護部、1) 臨床検査科、2) 薬剤部、3) 整形外科 †看護師

著者連絡先：佐々木恭兵 国立病院機構村山医療センター 看護部 〒208-0012 東京都武蔵村山市学園2-37-1

e-mail : sasaki.kyohei.cj@mail.hosp.go.jp

(2020年3月19日受付, 2020年12月11日受理)

Current Status and Issues of Antibody Titers of Epidemic Virus Disease (Measles, Rubella, Varicella, Mumps) among Staffs Working in a Medical Center

Kyohei Sasaki, Eiji Uchida, Yuka Satoh, Masakazu Takemitsu, NHO Murayama Medical Center

(Received Mar. 19, 2020, Accepted Dec. 11, 2020)

Key Words : epidemic viral disease, virus antibody titer test, vaccination, occupational infection prevention, hospital acquired infection